

## 中央会の会員組合のための融資制度があります！（中小企業組織融資制度）

秋田県中小企業団体中央会に加入している中小企業組合及びその組合員は、株式会社商工組合中央金庫からの借入金利が優遇され、負担が軽減されます。是非ご利用下さい。

12月末現在の利用実績：設備資金3件、運転資金14件(転貸含む)

### 【中小企業組織融資制度の概要】

	設備資金	運転資金
限度額	組合5億円、組合員2千万円 ※組合が総会で決定した借入金・貸付金の額によります	
金利	商工組合中央金庫所定金利の0.5%減	
期間	10年以内	7年以内
担保・保証人	商工組合中央金庫の定めによる	

※ なお、特定のテーマ(ものづくり、地域資源活用、海外展開 等)に取り組む場合は、「中央会推薦貸付制度」もご利用いただけます。制度の概要につきましては本会までお問い合わせ下さい。

【お問い合わせ先】 本会企画広報課 (☎018-863-8701)

## 景況レポート

(12月分・情報連絡員80名)

## 円安の進行等により 製造業の景況が悪化

【概況】 12月分の県内景況は、前年同月と比較して、景況が「好転」したとする向きが11.3%(前月調査11.3%)、「悪化」が46.3%(同47.5%)で、業界全体のDI値は-35.0%となり、前月調査と比較して1.2ポイント上回った。県内景況は、一部業種では燃料価格の下落が追い風となり業況が改善したが、円安の進行に伴う原材料価格の高騰や天候不順の影響により、製造業のDI値は平成23年5月調査以来の-50%台となった。また、個人消費の低迷により、前年同月比で売上、収益ともに減少したとの報告が多くあることから、今後の県内景況については、予断を許さない状況となっている。

前月との比較(景況DI)

	12月	11月	増減
製造業	-50.0	-46.9	-3.1
非製造業	-25.0	-29.2	4.2

【製造業】 機械金属、鉄鋼、一般機器は、冬場に入り受注量が減少し、新規受注が不透明な状況となっている。また、食料品、印刷では、依然として個人消費が低迷しており、円安の進行による原材料価格の値上がりが経営を圧迫している。

【非製造業】 運輸業は、燃料価格の下落が追い風となり、売上、収益ともに前年同月比で増加し、一部で運賃価格に値上がり傾向が見られた。石油においても、燃料価格の下落により前月比で収益状況が若干改善された。一方、一般建築、電気工事は、人材不足が改善されていない状況となっている。  
(回答数：80名 回答率：100%)

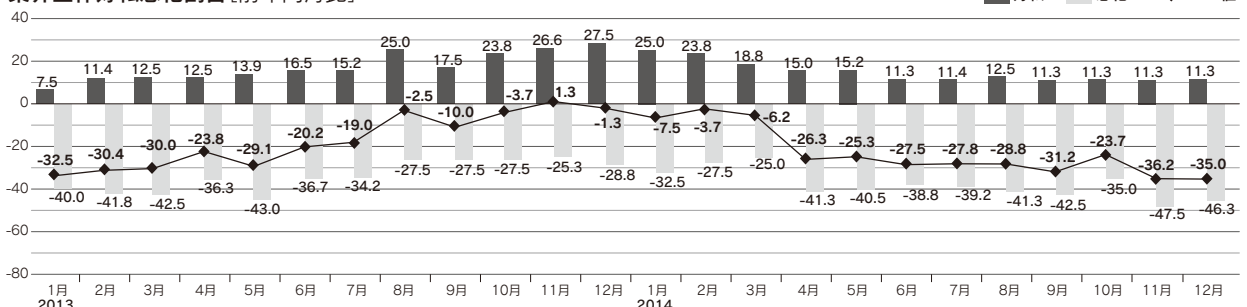
項目	業界の景況	売上高	販売価格	取引条件	資金繰り	雇用人員
製造業	悪化	悪化	悪化	悪化	悪化	悪化
非製造業	悪化	悪化	悪化	悪化	悪化	悪化



【天気図の見方】 前年同月比のDI値をもとに作成しています。

※DI値とは、Diffusion Index (ディフュージョン・インデックス) の略で、増加(好転)したとする企業割合から、減少(悪化)したとする企業割合を差し引いた値です。

業界全体好転悪化割合[前年同月比]



## 業 界 の 声

食料品 (菓子)	個人消費の低迷やホテル等の業界参入により、各店舗ともクリスマスケーキをはじめとした商品の予約数及び売上数量が前年同月比で減少した。
繊維製品	婦人服は、ロット数の多い定番リピート商品が多く発注されたため、売上は前年同月比ではほぼ横這いとなった。なお、平成27年1月～4月まで別注品が増加すると予測している。
木材・木製品 (外材)	12月の丸太輸入は、実績が無かった。なお、為替は円安、ユーロ高の傾向が当面続くと予測している。また、平成27年度の住宅需要は前年同様に推移すると予測され、今後は外材輸入を見合わせ、国産材合板製造へシフトすることが推察される。
印刷	消費税増税の影響により消費の回復が見られず、依然として需要の低迷が続いている。また、円安の影響により、諸材料の値上がり分が経営を圧迫している。(中央地区)
窯業・土石 (生コンクリート)	12月の出荷数量は、前年同月比で10%減少し、平成26年4月～12月の累計は前年比で約97%となった。なお、県南、県北部の積雪量が多いため、生コン出荷への影響が懸念される。
鉄鋼・金属 (鉄鋼)	冬場に入り、前年同月比で新規受注、見積物件がそれぞれ減少した。
一般機械	当面の受注量は確保しているが、これから先の新規受注等は不透明である。なお、円安の影響により、原材料価格が上昇傾向となっているが、値上がり分を販売価格に転嫁することが難しい状況となっている。
その他の製造業 (漆器)	降雪等の季節的要因により客足が伸び悩み、前年同月比で売上が減少した。しかし、来月以降は、物産展等が多く開催されるため、広くPRを行い、売上増加や産地の活性化を図りたい。
卸売 (青果卸)	12月の売上は、衆議院選挙の影響により飲食店の売上が減少したため、前年同月比93.7%と低調に推移した。なお、12月下旬は売上が増加したが、前年同月比を上回るまでには至らなかった。
小売 (石油)	ガソリンは1ℓあたり152円50銭で前月比4円30銭と18週連続の値下がりとなった。軽油は1ℓあたり136円10銭で前月比5円30銭の値下がり、また、配達灯油も18ℓで1,786円と前月比85円の値下がりとなった。前年同月比で収益状況は改善された。
商店街	12月の売上実績は、酒類販売業は地酒の販売が順調に推移したが、全体的に見ると、天候不順の影響により客足が伸び悩み、前年同月比で売上が減少した。(秋田市)
サービス (旅行)	国内旅行の売上は各社で伸び悩み、前年同月比82%となった。また、海外旅行の売上は、円安の進行により前年同月比79%となり、それぞれ低調に推移した。なお、12月末は長期休暇の取得等の要因で売上が増加したものの、景況を好転するまでには至らなかった。
建設業 (電気工事)	グループホーム等の施設建築が多少あったが、一般住宅工事は前年度見られた消費税増税前の駆け込み需要はなく、電設資材の需要に大きな変化がなかった。また、太陽光発電設備資材は、需要が堅調に推移した。なお、電気工不足は改善されていない状況となっている。
運輸業 (トラック)	12月の輸送量の動きは、売上、収益ともに前年同月比で約5～7%増加し、一部で運賃価格に値上がりの傾向が見られた。なお、燃料価格が下落傾向のため、今後の動向に期待感をもっている。
その他の製造業 (砂利採取)	降雪期を迎え、骨材の荷動きが活発になると予測していたが、前年同月比で荷動きは若干下回った。(県南地区)